

## 特 許 協 力 条 約

発信人 日本国特許庁 (国際予備審査機関)

出願人代理人  
吉武 賢次

様

PCT

あて名

〒 100-0005  
東京都千代田区丸の内三丁目2番3号 富士ビル  
323号 協和特許法律事務所

国際予備審査報告の送付の通知書

(法施行規則第57条)  
[PCT規則71.1]

発送日

(日.月.年)

31. 8. 2004

出願人又は代理人  
の書類記号

143086-015

重要な通知

国際出願番号

PCT/JPO3/08849

国際出願日

(日.月.年) 11. 07. 2003

優先日

(日.月.年) 16. 07. 2002

出願人 (氏名又は名称)

豊和工業株式会社

1. 国際予備審査機関は、この国際出願に関して国際予備審査報告及び付属書類が作成されている場合には、それらをこの送付書とともに送付することを、出願人に通知する。
2. 国際予備審査報告及び付属書類が作成されている場合には、すべての選択官庁に通知するために、それらの写しを国際事務局に送付する。
3. 選択官庁から要求があったときは、国際事務局は国際予備審査報告 (付属書類を除く) の英語の翻訳文を作成し、それをその選択官庁に送付する。

## 4. 注 意

出願人は、各選択官庁に対し優先日から30月以内に (官庁によってはもっと遅く) 所定の手続 (翻訳文の提出及び国内手数料の支払い) をしなければならない (PCT39条(1)) (様式PCT/IB/301とともに国際事務局から送付された注を参照)。

国際出願の翻訳文が選択官庁に提出された場合には、その翻訳文は、国際予備審査報告の付属書類の翻訳文を含まなければならない。

この翻訳文を作成し、関係する選択官庁に直接送付するのは出願人の責任である。

選択官庁が適用する期間及び要件の詳細については、PCT出願人の手引き第II巻を参照すること。

名称及びあて名

日本国特許庁 (IPEA/JP)  
郵便番号100-8915  
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

権限のある職員

特 許 庁 長 官

3C

9348

電話番号 03-3581-1101 内線 3324

様式PCT/IPEA/416 (1992年7月)

(添付用紙の注意書きを参照)

EXPRESS MAIL LABEL  
NO.: EV 481672345 US

特 許 協 力 条 約

P C T

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)  
〔PCT36条及びPCT規則70〕

出願人又は代理人 の書類記号 143086-015	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知（様式PCT/ IPEA/416）を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO3/08849	国際出願日 (日.月.年) 11.07.2003	優先日 (日.月.年) 16.07.2002
国際特許分類 (IPC) Int Cl <sup>7</sup> G05B19/4097, 4069		
出願人 (氏名又は名称) 豊和工業株式会社		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条 (PCT36条) の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
- ☒ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。  
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)  
この附属書類は、全部で 4 ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
- I ☒ 国際予備審査報告の基礎
- II ☐ 優先権
- III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- IV ☐ 発明の単一性の欠如
- V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- VI ☐ ある種の引用文献
- VII ☐ 国際出願の不備
- VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 25.12.2003	国際予備審査報告を作成した日 13.08.2004		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 八木 誠	3C	9348
電話番号 03-3581-1101		内線 3324	

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (1998年7月)

## I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。  
PCT規則70.16, 70.17)

☐ 出願時の国際出願書類

- ☒ 明細書 第 1-15 ページ、  
明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ、  
明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ、  
出願時に提出されたもの  
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
\_\_\_\_\_ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☒ 請求の範囲 第 2, 7-9, 13, 15 項、  
請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項、  
請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項、  
請求の範囲 第 1, 6, 10-12, 14, 16 項、  
出願時に提出されたもの  
PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
17.06.2004 付の書簡と共に提出されたもの
- ☒ 図面 第 1-9 ページ/図、  
図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図、  
図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図、  
出願時に提出されたもの  
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
\_\_\_\_\_ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 明細書の配列表の部分 第 \_\_\_\_\_ ページ、  
明細書の配列表の部分 第 \_\_\_\_\_ ページ、  
明細書の配列表の部分 第 \_\_\_\_\_ ページ、  
出願時に提出されたもの  
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
\_\_\_\_\_ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である \_\_\_\_\_ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)という翻訳文の言語  
☐ PCT規則48.3(b)という国際公開の言語  
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3という翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表  
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表  
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった  
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☒ 請求の範囲 第 3-5 項  
☐ 図面 図面の第 \_\_\_\_\_ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならない、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1, 2, 6-16	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	6-9, 11, 16	有
	請求の範囲	1, 2, 10, 12-15	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1, 2, 6-16	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

- 文献1: JP 2001-52037 A (株式会社日立製作所)  
2001.02.23, 全文, 全図 (ファミリーなし)
- 文献2: JP 11-39014 A (コマツ工機株式会社)  
1999.02.12, 全文, 全図 (ファミリーなし)
- 文献3: JP 63-239557 A (株式会社日立製作所)  
1988.10.05, 全文, 全図 (ファミリーなし)
- 文献4: JP 11-224116 A (三菱電機株式会社)  
1999.08.17, 段落【0005】, 第11図 (ファミリーなし)

請求の範囲1, 2, 12-15

国際調査報告書で引用した文献1には、表計算ソフトのシートに加工条件等のデータを記述し、該シートと形状データがリンクされて利用可能なことが記載されている。

国際調査報告書で引用した文献2で示すように、ピストンの非円形部を含む形状データに基づいて、ピストンを加工するNC加工用データを生成することは、本願出願前の周知技術であり、表計算ソフトにおいて、特定のセルを所定のデータ用とすることは、例示するまでもなく本願出願前の周知技術であるから、文献1に記載の発明において、これら周知技術を適用することは、容易になし得ることである。

よって、請求の範囲1, 2, 12-15に係る発明には進歩性は認められない。

請求の範囲10について

国際調査報告書で引用されなかった文献4が示すように、時間軸を基準軸として加工位置及び加工速度をグラフィック表示することは、周知技術に過ぎないから、文献1に記載の発明に、該周知技術を付加することは、容易になし得ることである。

よって、請求の範囲10に係る発明には進歩性は認められない。